

作井 繁樹 議員 … 3 件の一般質問

旧東陵中校舎の利活用 平成30年7月までには結論を



町長：平成30年ぐらいまでには、何らかの方向は示さなければ

**前町長時代からの
積み残しの課題**

作井 過去の議論を踏まえ積み残しの課題を順次伺う。先ずは自治基本条例、制定するの可否か。

町長 さまざまな角度から十分な議論が必要。現時点では検証に止め、制定する予定はない。

作井 職員の人事異動、発令日に配置完了するの可否か。

町長 新年度スタートとも新しい職員配置体制が完了していることが望ましい姿であることは十分に認識している。早期の異動内示に努める。

作井 新たな行革大綱、別途策定するのか。

町長 平成29年度を目標として、新たな行政改革大綱を策定する。

作井 旧東陵中校舎の利活用、検討の進捗状況は。

町長 有効な利活用策が見出せずにいる。取り壊しなら2億円程度。

情報収集に努め、早期の利活用策を見出したい。

作井 利活用策、新幹線雪害対策試験が終る平成30年7月までには、きちんと結論を出すべき。

町長 平成30年ぐらいまでには、何らかの方向は示さなければならぬ。

**西江町長が
明言している課題**

作井 副町長2人制、新年度に実現可能か否か。

町長 国の地方創生人材派遣制度に基づき、第1希望に国土交通省、第2希望に総務省、第3希望が経済産業省。実現に向け努力する。

作井 2人目の副町長は、誰でもいいということではなく戦略的に。国交省から、もしくは総務省からにこだわるべき。

町長 特に国土交通省に對して事前に要望、今後とも派遣を要請する。

作井 間口雪処理、検討の進捗状況は。

町長 関係部局及び関係機関等との検討会を立ち上げ、民間間口除雪の状況等を参考に検討する。

作井 町民の悩みの最大公約数は雪問題だと思ふ。先ずは間口雪処理、本当に即、取り組むべき。

町長 関係者と協議しながらしっかりと取り組む。

**新年度以降の
新たな取り組み**

作井 主権者教育の推進、横の連携が不可欠であるが、それぞれの認識、果たすべき役割、具体的な効果は。

町長 主権者として社会を生き抜く力や、地域の課題解決を、社会の構成員の一員として、主体的に担うことができ力を身につけさせることと認識。各種選挙における投票率向上に向けた取り組みを継続。高校2年生を対象に選挙

啓発出前講座を開催、生徒は興味深く真剣に取り組んでいた。

教育長 同様の認識。学校と連携しながら取り組んでいく。学校生活を一人一人が主体となつてつくっていく経験をすることは、将来、実社会に出たときにも生きてくる。

町長 同様の認識。教育委員会をはじめとする関係機関と連携し、取り組みを進める。自立に向けて必要となる能力や態度を身につけることを目的に、キャリア発達を促す。

作井 ペーパーレス化を推進すべき、現状認識と新年度以降の取り組みは。

町長 経費削減が期待できる。新年度以降も、これまでの取り組みを踏襲し、新たにどのような取り組みができるのか検討する。

作井 指定管理者制度の活用、社会教育施設を順次移行すべき。

町長 移行に向けた具体的な検討をしている状況には至っていないが、収益性、効率的・効果的な管理運営が見込める施設においては、教育委員会とも協議しながら積極的に取り組む。

作井 旭ヶ丘公園全体の更なる見直し、改善策、再整備計画も踏まえ、指定管理者制度への移行、是非検討すべき。

町長 施設のあり方を含め、指定管理者についても更に検討を深めていく。

作井 全体を通して言い過ぎたことは「町長の言葉の重み」ということ。自分の言葉に責任を持つ。守れない約束はしない。問題が起きたとき、部下のせいにしてトップが逃げるようなことは絶対あってはならない。再認識しつつ今後も尽力を。